
世界の王様

飛跳ふあすこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界の王様

【Nコード】

N1488F

【作者名】

飛跳ふあすこ

【あらすじ】

孤児として育った女子高生、東条リィはある日世界最高地位と権力をもつ「世界の王様」になれといわれ？彼女と3人のボーディーガードの1年間の物語。

Prologue

— prologue —

20xx年、世界は2000年初期と比べ多大なる変化をとげていた。

地球温暖化により、北半球はひとつの孤島を残し、人が住めぬ雪国となり

南半球の60%の大陸、島国は海の下に沈んだ。

それから数年後、領土を争い戦争が勃発。

ただでさえ、世界の異常気象により人が亡くなっていく中戦争により人口の減少が加速。

第3次世界大戦の終盤には世界の人口は約10億人となっていた。

そこに英雄があらわれた。

彼は世界をひとつの国として扱い、

彼は自分は世界の王だと言った。

彼の名はフィリップ・エズナーブルだった。

しかし、彼はただの人間だった。

彼は王位についてから50年後、この世をさった。

しばらく平和は保たれたものの、
次の世代に変わるにつれ各地域でまた
紛争や犯罪などが起こった。

この物語はそんな世界の王になった
少女と彼女のガードマンの物語。

一 一 非日常の始まり

この国はどーかしているといつも思う。

せつかくフィリップ王が平和を治めたと言うのにまたいろんな争いがはじまった。

そして常に起こる争いにあたしも巻き込まれ、両親の死によって孤児院に捨てられたらしい。

もしあたしが王様になったならこの世界を変えてみたいわ！

平和でいつも笑顔が溢れている、世界にね！

—————

「おはよう」

と教室に入った時、少し心の中でいってみた。

だけど心の中でいったってだれも気づかないし、普通にいってもだれも返してくれることなんてありえなかった。

暗い顔でクラスの窓際の一番後ろの端にある自分の席に座る。

図書館で借りた少しむつかしい本を読んで授業が始まるまでの時間を待った。

その本は人生とやら、世界とやら、宇宙とやらを解いた哲学の本。

やはりまだその本は少し難しすぎたようでやはり読んでいて意味はわからなかった。

なのでもう一冊本を取り出してみる。

その本はむかーしむかし、まだ世界が大災害が起こる前のもっと前に本当にあったある国が革命を起こした話。

その本をぱらぱらと読んで人は立ち上がれば色々と変わるのだな
と思った。

だけどあたしに協力してくれるひと何ぞこの田舎町にはいなかった。

やはり王様になるなんて無理な話だと思った。

—————
学校中に低い鐘の音が鳴る。

下校時間だ。

あたしは鞆に本をしまってだれも居ない教室をでた。

今日もやっぱり、だれからも声をかけらなかったし、かけもしなかった。

前みたく「本当」の自分をださなかったから、前見たく悪い目ではみられなかったけれどやはり退屈な日々であった。

そう思いながらまだ少し明るい夏の夕焼けに向かってとぼとぼと歩いていた。

そんなときだった。

また鐘がなった。

だけど今回は教会からである。

「ハロルド・エズナブル王が死去しました。葬儀は…」

王様の死去についての知らせだ。

たしか先月あたりハロルド王の息子と家族が失踪したという話を聞いたわ。

じゃあ、今度の王様になるのはだれなのかしら。

「あたしじゃだめかな？」

ふっと口にした願望。バカらしすぎて笑っちゃう。

夕日を見ながら家までの道のりを歩いていると黒塗りの高級車が自分の横を通っていった。政府の車かしら？

少し興味を持ち、後ろを見てみるとサングラス姿の男がでてきた。ちよつと危険を感じ、逃げようとするがいきなり後ろから手首をつかまれ、車にひきずりこまれた。一応抵抗をした。いや、一応ではなくむちゃくちゃした。だけどその男の力にはかてず引き込まれた。

「王様にならないかしら」と思ったからなの！
そんなんで取り締まるの！この政府は！
いや政府？ただの誘拐じゃない？

でもあたしの未来はお先真っ暗ね。

— 2 — 本当の自分

車に乗ってもう何時間経つのだろう。

あたしはいてもたってもいられなかった。

どーしてあたしなのかしら！もっとヤバイことやってる犯罪者捕まえなさいよ！

あいつらにとっていい薬になるはずだわ！

とりあえず、なんとかスキをつくらなきゃ！

いっちょまえに話を聞いてどんな状況とかきこかな？

「あの：あたしどこへつれていかれるのでしょうか。」

隣の二人に聞いてみる。

「王宮だ。」

隣の東洋系男性が答える。

王宮：ですって？なにいつてんのこの男！アホカ！

とりあえず自分がなにかやったか、思い返してみる。

思い返してみた。なにもあたしはやってないはずよ！やってないわ！！

少しだけ、少しだけ昔まだ「あの」孤児院にいたころの事はひっかかるのだけれど、あれはもう5年くらい前の話よ！なんでいまさらつかまえにくるのかしら！時差ぼけかつーの！！

「王宮、なんであたし王宮につれてかれるのよ！」

もう一度訪ねてみる。このおっさんに。

「君が王位を継ぐからだ。」

あたしの中で時が止まった。

「あたし、がそのこの世界の王様になるの？」

「そうだ」と男がいった。

「おまえは今日付けで死去したハロルド王の娘にあたるエリサ姫の娘なんだ。

まあお前の母親は平民と駆け落ちして警備が緩んだ瞬間王制に反対するシティゼンに殺されたがな」

頭が痛くなる話だ。

――――――――――

しばらくあたしは放心状態に劣った。「あなたは今日から世界を統治する王様です」といわれてそんな状態になる人は絶対いない。しかも「お母さんはシティゼンに殺された」だなんて。物語のヒロイン？ 私って。頭の回線が抜けた感じがする。

「で、そのリ……」

「なによ……」

うわ！ つい地がでてしまった。3年くらい押さえていたのになんで？ でもあたしは自分を押さえつけられなかった。

「なにが起こってるのよ！

第一、あたしが世界の王様？！大臣どもはなっとくしているの！

それにどうやってあたしがお母さんの娘ってわかったのよ！ なんかあたしに特徴でもあるの！

それに、あなた達はなにものよ！ 国の機関の人間か！ 税金泥棒か！ 答えなさい……」

久しぶりに大声だった。

でも少しだけ気持ちよかった。ワインのボトルを開けるようにすっ

きりした感じ。

けれど…、男と隣の少女は少しだけ困惑していた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1488f/>

世界の王様

2011年1月9日02時38分発行